

● 日本語閱讀教材

二十一世紀 世界の中の日本



主編 王宗傑 東一郎 劉毅



北京語言大學出版社
BEIJING LANGUAGE AND CULTURE
UNIVERSITY PRESS

日本語閱讀教材

二十一世紀
世界の中の日本

主編

王宗傑

東一郎

劉毅

江苏工业学院图书馆
藏书章



北京语言大学出版社

BEIJING LANGUAGE AND CULTURE
UNIVERSITY PRESS

(京)新登字 157 号

图书在版编目(CIP)数据

二十一世纪世界中的日本/王宗杰, 东一郎, 刘毅主编.

—北京: 北京语言大学出版社, 2005

日语阅读教材

ISBN 7-5619-1490-3

I. 二…

II. ①王… ②东… ③刘…

III. 日语-阅读教学-高等学校-教材

IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 079306 号

书 名: 二十一世纪世界中的日本

责任印制: 乔学军

出版发行: 北京语言大学出版社

社 址: 北京市海淀区学院路 15 号 邮政编码 100083

网 址: <http://www.blcup.com>

电 话: 发行部 82303648/3591/3651

编辑部 82303393

读者服务部 82303653/3908

印 刷: 北京北林印刷厂

经 销: 全国新华书店

版 次: 2005 年 8 月第 1 版 2005 年 8 月第 1 次印刷

开 本: 787 毫米×1000 毫米 1/16 印张: 9.5

字 数: 119 千字 印数: 1-5000 册

书 号: ISBN 7-5619-1490-3/H·05092

定 价: 19.50 元

凡有印装质量问题本社负责调换, 电话: 82303590

前 言

本書は、高等学院校日本語専攻科高年級生・研究生及び成人の上級日本語学習教材として編纂した。現在、初中級学習者用の日本語教材は汗牛充棟、枚挙に暇ないほどであるが、上級日本語学習者のニーズに応え得るものは意外に少ない。

21世紀を迎え、世界は全球化の時代に入った。20世紀の100年間は科学技術の急速な進歩と二度の世界大戦に象徴される戦争の世紀であったと言えよう。新しい世紀の100年間を世界はそして人類はどのように歩むのか、その中にあって日本はどんな道を選択するのであるか。不確実性要素の多い未来を予測することは困難であるが、それを考えるには、今日の日本を世界的視野から広く深く知ることが必須条件であろう。

誰しも母語に対して限らない愛着をもっと同様に、外国語を学ぶこともまた単に言語の習得のみならず、その言語を愛し、背後にある風土・民族・歴史・社会・文化そして人間を広く深く理解する必要がある。故に教材に求められるのは、学習者の知的関心や興味を引く魅力であり、新しい知識の源泉たり得ることであろう。

本書では、世界の中の日本という視点に立って、今日の日本の諸相を紹介あるいは論じた他方面の文章を取り上げた。それらの学習を通じて日本語の習得のみならず現代日本の姿や日本人の心を理解し、21世紀を展望するに足る知識と判断力とを養うことを目標にした。学習者は本書によって日本の知識層が言語生活において理解し使

用している水準の日本語を学びとり、且つ上述の目的をも達することができるはずである。

編集に際しては、十分注意を注いだつもりであるが、なお改善すべき点も少なくないであろう。皆さんからの忌憚ないご意見、叱正を寄せられるようお願いする。

前 言

本书是为高等院校日语专业高年级、研究生及成人高级日语学习者而编撰的教材。

现有的初级日语学习教材如汗牛充栋、不胜枚举，然而与时代相契合的高级日语学习教材及读物却少之又少，已经不能满足学习者的需要。21 世纪世界进入了全球化时代。20 世纪的百年可以说是科学技术突飞猛进的世纪，也可以说是以两次世界大战为代表的战争的世纪。

在新世纪的百年里世界及人类将怎样走过？日本将选择什么样的道路？我们很难预测具有很多不确定性因素的未来，但有必要站在世界的高度更深刻、更全面地了解日本。我们学习的不仅仅是一门语言，我们有必要像深爱自己的母语一样去热爱日语，广泛地深刻了解产生这种语言的风土、民族、历史、社会及文化背景。因此，这本教材的目的在于开发学习者的广泛兴趣，并注重传达最新的知识点。

本书以世界中的日本为视点选取了介绍或论述当今日本现状的一些文章。通过学习这些文章，学习者不仅能掌握日语，而且得以理解现代日本的现状和日本人的心理。展望 21 世纪，我们的目的在于增加学识，培养判断力。学习者通过学习此书能够理解日本知识阶层的语言生活，达到掌握他们所使用的标准日本语的目的。

此书经反复推敲编辑而成，然而仍有一些需要改善之处，恳请各位不吝赐教。

本書の編集について

1 編集意図

- ア 上級日本語学習者の要求に応じ得る水準の日本語教材を目指した。
- イ 日本語の学習に併せて、全球的視野に立って21世紀の「日本と日本人」を知るために、教材は最近日本の出版物から選定した。
- ウ 文学作品は、既に多数の教科書が出版されているので、除外した。

2 規格

- ア 各課ごとにキーワード、本文、出典、著者、言葉の意味と内容、語法と表現、学習課題から構成する。
- イ 学校における週2回4時間（2コマ）、2学期間の授業で可能な学習量を想定編集した。

3 編集形態と留意点

- ア 課文は、著者の意図や内容の全体像を理解できること、およびレポートや小論文作成の参考となることを考慮して比較的長文を採用した。
- イ キーワード——内容を理解するための鍵となる語句を掲げた。
- ウ 次のような漢字語には学習上必要な「ふりがな（ビル）」を

付けた。

- a. 訓(くん)読み漢字語——学習上もっとも困難な点の一つなので、以下のような語には平易なものを除いて「ふりがな」を付した。

◇ 文体や文脈により読み方や語義異なるもの

今月(こんげつ)・一月(ひとつき)・一月(いちがつ)

このころ・このごろ

この間(あいだ)・この間(かん)・世間(せけん)・一間(ひとま)

入る——(いる・はいる)

抱く——(だく・いだく)

◇ 連濁音・連声音

寒々(さむざむ)と

多くの方々(かたかた、ほうぼう)を回る

観音(かんのん)

万葉(まんにょう)集

- b. 音(おん)読み漢字語——特に難読語に付した。

生存(せいぞん)・依存(いそん)

存在(そんざい)・ご存じ(ぞんじ)

エ 本文中のカタカナ語には原語をも併記した。

オ 語法と表現——重要な語法や表現を考えるためのヒントを設定形式で示した。

カ 学習課題——理解を深めるための課題を設けた。特に、日本語による感想文や短いレポートなど文章記述や口頭発表、討論形式の学習課題を出題した。

キ 朗読の参考に供するため、全部の課文の朗読テープを作成

した。

4 その他

本教材は主として2003年2月～7月の1学期間、ハルビン師範大学日語系三年生に対する閲読授業に使用したものである。

编写说明

一、编写意图

1. 本书是为满足高级日语学习者的需要而编写的日语高级阅读教材。
2. 本着从全球的视角出发，全面了解 21 世纪的日本和日本人这一宗旨，本书在选材上力求知识点新、观点全面，在满足语言学习的同时，尽量从最近的出版物中选材。
3. 本书避免重复使用一些已经被多数教科书所选定出版的文学作品，尽量采用最新内容。

二、规格

1. 本书每课由关键词、课文、出典、著者、单词和内容、语法和表现、注释、学习课题、思考问题等部分组成。
2. 总量是按照每周两次课四学时共两个学期的课程安排而设定的。

三、编辑形式和重点

1. 为了更好地理解原著者的意图以及课文的整体内容，同时也为了更好地为写小论文和报告书提供参考，本书采用了相对较长的文章。
2. 为了使读者更快地掌握课文内容，本书在每一课正文前列举了关键词，作为解析课文的钥匙。
3. 由于本书收录的内容均为最近出版、发表的文章，因此为了更

准确地掌握最新的语言信息，本书给如下几种情况的汉语词汇都标注了假名：

- (1) 训读汉字——这是学习中最费时间、难以掌握的部分之一，除特别简单的发音以外，本书对以下一些情况全部标注了振假名。

- ◇ 根据文体和文章的脉络在发音和单词读音方面产生变化的地方。如：

今月(こんげつ)・一月(ひとつき)・一月(いちがつ)

このころ・このごろ

この間(あいだ)・この間(かん)・世間(せけん)・一間(ひとま)

入る——(いる・はいる)

抱く——(だく・いだく)

- ◇ 连浊音、连声音

寒々(さむざむ)と

多くの方々(かたかた、ほうぼう)を回る

観音(かんのん)

万葉(まんしょう)集

- (2) 音读汉字——特别是难读字词。如：

生存(せいぞん)・依存(いそん)

存在(そんざい)・ご存じ(ぞんじ)

4. 文章中出现的片假名都同时标记了词源，以便学习者更好地掌握。
5. 语法和表现——以问题的形式设置了重要语法和特殊表现形式的提示。
6. 学习课题——为了加深理解、培养学生的独立思维能力，特别

是为了方便日语感想文、报告书等文章的写作和口头演讲、日文研讨等学习形式的需要，本书在每课结束后设置了课题。

7. 为帮助流畅、地道地掌握日语，本书全部课文配有录音磁带。

四、其他

2003年2月至7月本教材曾作为哈尔滨师范大学日语系三年级学生一个学期的泛读教材试用。

目 次

一、21 世紀を迎えて

- (一) 「全球」時代を生きる …………… 朝日新聞 社説 1
- (二) 文化と文明の観点からみた日本の特徴
…………… S. ハンチントン 8

二、言語生活——話す・読む

- (一) 会合でのスピーチ …………… 小見 誠広 15
- (二) ことばで人にはたらきかける …………… 熊谷 智子 20
- (三) 意味を考えて読む …………… 杉原 満 27

三、科学の世界

- (一) 科学技術と社会 …………… 佐々木 力 32
- (二) 科学の未来像 (座談会) …………… 日本経済新聞 41

四、日本人の心

- (一) あいまいな日本の私 (講演) …………… 大江 健三郎 55
- (二) 現代人の作法 …………… 中野 孝次 72

五、異文化との接触

- (一) 模倣と創造 …………… 呉 善花 81
- (二) 自文化と異文化 …………… 青木 保 90

六、評論と随筆

- (一) 人間という生き物 渡辺 淳一 103
- (二) 主客転倒 児玉 南海雄 115
- (三) 場違いな思い込み 永沢 裕子 118

七、言葉を考える

- (一) 単語に敏感になろう 大野 晋 121
- (二) 言葉についての新しい認識 池上 嘉彦 127

一、21世紀を迎えて

(一)「全球」時代を生きる

朝日新聞 社説

キーワード：市民の世紀、統合と分化、全球化、異文化、変革

新たな100年の最初の日を迎えた。私たちが生きる21世紀は、どんな時代になるだろうか。

「環境の世紀」とか「市民の世紀⁽¹⁾」という言い方がある。「情報の世紀」を強調する人もいる。国家や民族間の「統合」が進むとの見方もあれば、むしろ「分化」へ_[a]と向かうのではないか、との予測もある。

人間の創造力には限界があるし、歴史には思わぬ展開がつきものだ⁽²⁾。前世紀の初頭、多くの人々は科学技術の進歩への期待から、総じて明るい未来を予測していた。しかし、国家間の対立の激化が早々に世界大戦の続発を生む⁽³⁾。20世紀は「戦争の世紀」へと暗転し、科学の進歩も「総力戦⁽⁴⁾」遂行の大量殺戮に動員⁽⁵⁾されることになったのである。

いま、地球にバラ色の明日を描くのは難しい。アメリカ一国の間際立つ繁栄の陰で、南北格差⁽⁶⁾はむしろ広がり、民族や宗教対立な

ども後^{あと}を絶^たたない。地球環境^{ちきゅうかんぎょう}の悪化^{あくか}や、資源・食糧問題^{しよくりょうもんだい}^[b]と難問^{なんもん}ばかりが行^ゆく手^てに見える。しかし、百年前とは決定的に違うことがある。それは、国々^{くにぐに}や人々^{ひとびと}の相互依存^{さうごいそん}が格段に深まり、ほとんどの問題^{もんだい}が国際的な枠組み^{わくぐみ}でなければ解決できなくなったことだ。

利害の対立や意見の違いはあっても、それを多国間の協議で調整する仕組み^{しくみ}が、あらるる分野に広がった。

経済活動は国境を超えて相互に入り組み、市民同士も含めたネットワーク⁽⁷⁾が張りめぐらされている。情報^{ちへい}や知恵^{ちえ}が瞬時に共有される世界が広がり、憎悪^{そうお}や偏見、誤解が解決を誤^{あやま}らせる危険は徐々に減少しつつある。

今年^{ねん}は国連の「文明間の対話年」⁽⁸⁾でもある。その契機をつくったイランのハタミ大統領⁽⁹⁾は先頃来日し、国会議場^{こっかいぎじょう}での演説^{えんぜつ}などで、異なる文明や思想を互いに尊敬しつつ、対話と交流を図ることの大切さを訴^{うた}えて感銘^{かんとく}を与えた。「グローバリゼーション」⁽¹⁰⁾は、中国語では「全球化」と言う。この英語には市場経済^{しじょうけい}がもたらす負^ふの側面⁽¹¹⁾もつきまとう。ところが「全球化」には地球全体が一つ、というニュアンスが感じられる。困難な問題も「全球」で知恵を出しあえば何とかなるのではないか、理性と解決の意志さえあれば道筋^{みちすじ}はつくのでは、^[c]とそんな気がしてくる。

2000年秋の「国連ミレニアム」⁽¹²⁾では、ほとんどの国の元首^{げんしゅ}や首脳が史上初めて一堂に集まった。めざましいと言えるほどの前進はなかったが、「対話」のプロセス⁽¹³⁾が世界規模に広がり、それが維持されていること自体が得難い前進と言うべきだろう。

「全球化」の強力な波は、反面でその反作用として、国家や民族、宗教などの固有⁽¹⁴⁾の原理や歴史、文化への愛着を強めさせる伝統回帰⁽¹⁵⁾の運動を巻き起こしている。それが「対話」を前提にした開放性

を伴うものであれば、「全球化」の弊害を和らげ、相互に好ましい影響を与え合う建設的なものになるだろう。

しかしまた、こうした「伝統回帰」は、一歩間違えば民族意識を掻き立てるだけの偏狭で排他的なものになりがちだ。その意味で、日本の一部で見られる国家主義的な運動は、国を誤らせかねない危うさがある。

歴史的にみる_[d]と、日本はもともと異文化への付き合い方がうまい国だった。外国の思想や制度を学んで、長期間をかけて巧みに取り入れ、それを新たなものへと結晶させてきた。伝統や文化はその積み重ねの総体だ。古くは隋、唐に学んだ律令制度⁽¹⁶⁾や仏教分化がそうだし、プロシア⁽¹⁷⁾やフランスを手本に統治制度を整えた明治維新⁽¹⁸⁾がある。アメリカによる戦後の民主化⁽¹⁹⁾も自由で所得格差⁽²⁰⁾の小さい社会を生むとともに、世界史的にも稀な経済の急成長を実らせる下地をつくった。

逆に、ある程度の成果を上げて増長し過剰な自信を持ったりした時には、ろくでもない⁽²¹⁾歴史をたどった。何よりも15年戦争⁽²²⁾とその敗北につながった、日露戦争後の苦い歴史を思い起こさないわけにはいかない。

こうした危うさもはらむ「全球」時代に、日本の政治はまことにおぼつかない。広い視野や構想力⁽²³⁾を全く欠く。船に例えれば、船体は丈夫だし、燃料や動力も十分ある。しかし、進路を決め舵を取る、船橋⁽²⁴⁾にいる人々の操船能力がひどく衰えている。エンジンを動かすことには懸命だが、どこへ向かうかという肝心のことに英知を尽くそうとしない。

さっこん
あかじ
今日の日本政府は、目先の景気対策ばかりにとらわれ、膨大な財政赤字⁽²⁵⁾を積み重ねて、将来の不安を増大させている。これでは次